

業績一覧

著書・学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
【著書】				
1. The Dynamics of Regional Innovation: The Policy Challenge in Europe and Japan.	共著	2011年12月	World Scientific Publishing Co. Pte Ltd.	[担当部分] 第22章“Encouraging Producers of Inter-Industry Collaboration among SMEs in Tohoku Region” pp. 473-492 [共著者] 大滝精一氏と共同執筆 Yveline Lecler, Tetsuo Yoshimoto, Takahiro Fujimoto編
2. Social Business: Theory, Practice and Critical Perspectives	共著	2014年2月	Springer	[担当部分] 第9章“The Mystery of Small Social Business by the Poor: Lessons from the Creation of Creative Solutions Based on the Poor’s Potential” pp. 139-155 [共著者] Andrea Grove. & Gary A. Berg編
3.点描～変わりゆく現代社会	共著	2014年3月	ぎょうせい	[担当部分] 第6章「重要性を増すソーシャルビジネスの真相と社会的課題の解決への示唆」pp.133～155 [共著者] 青森中央学院大学編
4. 冬はあたたかい(こころの種に栄養を～雪国物語シリーズ)	単著	2020年3月	ものの芽舎	(令和2年度青森県推奨図書)
5. Rangers: Exploring my own values and my own capital, and designing my own context to achieve happiness	単著	2021年3月	Mononome-sha	洋書(English)
6. 制約対応、心理マネジメントを科学する—予測不能な事態に備える能力の探究—	単著	2023年1月	ものの芽舎	
【学術論文】				
1. Escape from poverty in developing countries in a management approach- The vicious circle and the role of internal branding —” 2008年	単著	2008年9月	『実践経営』第45号	pp. 3-12 「査読付き」
2. The point of convergence of social responsibility and complete poverty reduction: Exploration of the social	単著	2008年9月	Paper presented at Euro-Asia Management Studies Association,	pp. 18 「査読付き」

value viewpoint and self-independence of poor people			EAMSA 2008	
3. 経営学における新たな貧困削減の原動力ー貧困者の内発性への注目とその研究の展望へのインプリケーションー	単著	2009年9月	『実践経営』第46号	pp. 17-25 「査読付き」
4. Management research about solutions for the eradication of global poverty: A literature review	単著	2010年3月	Journal of Sustainable Development, Vol. 3, No. 1	pp. 17-28 「査読付き」
5. 求められる『経営』と『労働』の論理ー発展に向かうベトナムの現状から考える	単著	2010年6月	月刊経営労働 6月号	pp. 8-13 「査読なし」
6. Consideration of the process model of social problem-solving -Towards a behavioral approach in social entrepreneurship research.	単著	2012年9月	Paper presented at The 4th International Social Innovation Research Conference at Birmingham University, ISIRC 2012	pp. 17 「査読なし」
7. Challenges of impact assessment and sustainable development in social entrepreneurship-The case study of Sanaburi Foundation after the 3.11 Great East Japan Earthquake	共著	2012年9月	Paper presented at The 4th International Social Innovation Research Conference at Birmingham University, ISIRC 2012	pp. 16 [共著者] Aysenem Tuylieva氏と共同執筆 「査読なし」
8. Research on social problem-solving by poor people – Case study of the Association of Interdependent Arising of Persons with Disabilities	単著	2013年3月	青森中央学院大学地域マネジメント研究所『研究年報』第9巻	pp. 33-55 「査読なし」
9. 地域資源再発見による地域力再発見のダイナミズムに関する試論	単著	2013年3月	青森中央学院大学地域マネジメント研究所『研究年報』第9巻	pp. 57-62 「査読なし」
10. Examination of existing arguments on business oriented towards poverty reduction with the case of people with disabilities in Vietnam	単著	2013年7月	Asian Journal of Business Ethics, Vol. 2, No. 2	pp. 147-161 DOI 10.1007/s13520-012-0022-8 「査読付き」
11. An exploratory study on resource allocation and social innovation creation for true shared value”. “An exploratory study on resource allocation and	共著	2013年9月	Paper presented at The 5th International Social Innovation Research Conference at University of Oxford, ISIRC 2013	pp. 1-12 [共著者] Aysenem Tuylieva氏と共同執筆 「査読なし」

social innovation creation for true shared value				
12. 社会的課題の当事者の意識構造に関する一考察—ベトナムにおける障がい者の自立活動の事例研究を踏まえて	単著	2014年3月	青森中央学院大学 研究紀要	第22号pp.47-64「査読なし」
13. 青森県における障害者の地域生活支援—就労支援、住居を中心に—	共著	2015年9月	青森中央学院大学 研究紀要	第24号pp.85-94「査読なし」 [共著者] 石岡桂子氏と共同執筆
14. “A study on local socio-economic development by means of Bau Da wine product development strategies in Binh Dinh Prefecture – Vietnam”	単著	2016年3月	青森中央学院大学 研究紀要	第25号pp.13-24「査読なし」
15. 社会企業活動における機会の認知に関する考察～社会的課題の当事者の視点に着目して	単著	2016年9月	日本経営学会『経営学論集』第87集	(58)1-2「査読なし」
16. 資源分析の単位設定の再考～資源の解剖学的探検の試みを通じて	単著	2019年3月	東北大学経済学会 研究年報『経済学』	第77巻第1号pp.71-85. 「査読なし」
17. 資源制約への対応：ブリコラージュ理論の再検討と修正	単著	2019年9月	組織学会『組織科学』	53(1), 37-52「査読付き」
18. 社会企業活動における機会の認知に関する考察～問題の社会的構成の分析を通じて	単著	2021年3月	青森中央学院大学 研究紀要	第25号pp.13-24「査読付き」
19. 幼児の発達における利他的行為の教育的効果に関する学際的考察	共著	2022年3月	青森中央短期大学 研究紀要	第35号pp.1-6（研究ノート） 「共著者」兼平友子氏と共著執筆
20. 孤立孤独の軽減に向けた多世代間交流の研究—SDGs11 ちゅぴいふあーむつながるプロジェクトの事例研究—	共著	2023年3月	青森中央短期大学 研究紀要	第36号pp.11-20（研究ノート） 齋藤雅美氏、兼平友子氏と共著執筆
21. 幼児教育における利他的行動の教育方法論の考察—学際的な文献レビューを踏まえて	共著	2023年3月	青森中央学院大学 研究紀要	第36号pp.1-10（研究ノート） 「共著者」兼平友子氏と共著執筆
22. Students' Perceptions of Global Jinzai: A Comparative Study of University Students in Malaysia, Japan and Vietnam	共著	2023年3月	<i>International Journal of Learning and Teaching</i>	9 (1), 17-23「査読付き」

<p>【その他】 (調査研究報告書)</p> <p>1. 2008年度宮城県の食品産業振興プロジェクト報告書」</p>	共著	2009年3月	東北大学大学院経済学研究科・地域イノベーション研究センター『平成20年度 プロジェクト型教育研究実施報告書』所収	pp. 62~79 [共著者] 澁谷覚氏、福嶋路氏、Kanaporn Kumponkanjana氏と共同執筆
<p>(資料)</p> <p>大学間の授業連携の有効性の考察－青森中央短期大学と青森中央学院大学を例として－ (教材作成)</p>	共著	2023年3月	青森中央短期大学研究紀要	第36号pp.41-50 齋藤雅美氏、兼平友子氏と共著執筆
<p>1. 東鳴子温泉</p>	共著	2009年3月	農商工連携プロデューサー育成塾事例集、所収	pp. 16 [共著者] 佐藤勝典と共同執筆
<p>2. 道の駅上品の郷</p>	共著	2009年3月	農商工連携プロデューサー育成塾事例集、所収	pp. 16 [共著者] 畠山正人氏、Kanaporn Kumponkanjana氏と共同執筆
<p>(記事・寄稿)</p> <p>1 “Chuo gia tri binh dang – gop phan giu vung va phat trien thuong hieu Ruou Bau Da” (Vietnamese) (The win-win value chain for the preservation and development of Bau Da Wine)</p>	単著	2013年4月	“Khoa hoc & Cong nghe” (Science & Technology) Department of Science and Technology of Binh Dinh Province, Vietnam	pp.3~5
<p>2. 現代人は単角視していくのか</p>	単著	2017年1月	青森地域社会研究所	『月刊れちおん青森』 pp.12~13
<p>3. 暗い一色に染まらぬ生活 (こころの種へ栄養を～ようこそ幸せ研究室へ)</p>	単著	2020年12月	あおもりのき	第1号p. 41
<p>4. この度、青森県推奨図書に (こころの種へ栄養を～ようこそ幸せ研究室へ)</p>	単著	2021年3月	あおもりのき	第2号p. 47
<p>5. 他の部分に目を向けることにより消極的感情を和らげましょう (こころの種へ栄養を～ようこそ幸せ研究室へ)</p>	単著	2021年6月	あおもりのき	第3号p. 49
<p>6. 価値の優先順位の確認、調整に基づく幸せな生活を (こころの種へ栄養を～ようこそ幸せ研究室へ)</p>	単著	2022年1月	あおもりのき	第6号p. 47
<p>7. 我流の生き方で真の幸せを (こころの種へ栄養を～ようこそ幸せ研究室へ) 』</p>	単著	2022年12月	あおもりのき	第8号p.49

<p>(書評)</p> <p>1. Hart, S. L 著「Capitalism at the crossroads: Aligning business, earth and humanity. Wharton School Publishing。石原薫訳『未来をつくる資本主義—世界の難問をビジネスは解決できるか—』(英治出版, 2005年)」</p>	<p>単著</p>	<p>2009年9月</p>	<p>『日本ベンチャー学会誌 VENTURE REVIEW』第14号</p>	<p>pp.43~44</p>
<p>(学会報告)</p> <p>1. 発展途上国における農村・地域開発—『貧困削減と国際ブランドの構築』</p> <p>2. 発展途上国における『貧困からの脱出』</p> <p>3. 発展途上国における貧困削減—ソーシャル・アントレプレナーシップ・アプローチの位置づけ</p> <p>4. 発展途上国における貧困削減に対する経営学アプローチ—その実践性と課題—</p> <p>5. 貧困問題を捉える経営学における社会的価値(Social value)の一考察—市場志向の補完的な視点かどうかの検討—</p> <p>6. 新たな貧困削減のプレイヤーの登場—貧困者の内発性への注目—</p> <p>7. 開発型経営に関する試論—従来型経営のパラダイム転換の必要性およびそのアプローチの方向性について—</p> <p>8. 宮城県の食品産業の高付加価値化—現状の把握と問題点の抽出—</p> <p>9. 貧困脱却プロセスに関する経営学的な考察—貧困削減メカニズムの分析と貧困層発原動力への注目</p> <p>10. アジアの農村地域の開発に関する経営学の新潮流—観光誘致、地域活性化について—</p>	<p>単独報告</p> <p>単独報告</p> <p>単独報告</p> <p>単独報告</p> <p>単独報告</p> <p>単独報告</p> <p>単独報告</p> <p>単独報告</p> <p>単独報告</p> <p>単独報告</p> <p>単独報告</p> <p>単独報告</p> <p>単独報告</p> <p>単独報告</p>	<p>2007年6月</p> <p>2007年9月</p> <p>2007年11月</p> <p>2007年12月</p> <p>2008年6月</p> <p>2008年9月</p> <p>2009年7月</p> <p>2009年9月</p> <p>2009年9月</p> <p>2009年11月</p>	<p>実践経営学会第3回東北支部会</p> <p>実践経営学会第50回全国大会</p> <p>日本ベンチャー学会第10回全国大会、</p> <p>実践経営学会関東支部・東北支部合同研究会</p> <p>実践経営学会第5回東北支部会</p> <p>実践経営学会第51回全国大会</p> <p>異文化経営学会第20回研究会</p> <p>実践経営学会第52回全国大会</p> <p>実践経営学会第52回全国大会</p> <p>実践経営学会第8回東北支部会</p>	<p>青森県青森市・青森県観光物産館「アスパム」</p> <p>東京都・東京国際大学</p> <p>東京都・青山学院大学</p> <p>宮城県・ホテル松島大観荘</p> <p>岩手県花巻市・富士大学</p> <p>長崎県佐世保市・長崎県立大学</p> <p>東京都・明治大学</p> <p>宮城県石巻市・石巻専修大学</p> <p>宮城県石巻市・石巻専修大学</p> <p>岩手県北上市・渡り温泉</p>

11. 貧困削減の経営学的アプローチにおける貧困問題解決のプロセスモデルの構築—人間の問題解決理論を用いて—	単独報告	2010年11月	実践経営学会第10回東北支部会	岩手県北上市・ホテル千秋閣
12. 東北地域におけるソーシャルビジネスの研究—実践的な試みからの理論的示唆	単独報告	2011年11月	実践経営学会第11回東北支部会	岩手県北上市
13. 社会的課題の解決の基本要素に関する考察	単独報告	2012年11月	実践経営学会第12回東北支部会	岩手県花巻市
14. 社会的課題を捉えるビジネスアプローチに関する明暗境界線の一考察	単独報告	2015年7月	実践経営学会第16回東北支部会	宮城県仙台市
15. 社会企業活動における機会の認知に関する考察～問題の社会的構成の分析を通じて	単独報告	2015年12月	2015年度第1回日本経営学会東北支部会	宮城県仙台市
16. 社会企業活動における機会の認知に関する考察～社会的課題の当事者の視点に着目して	単独報告	2016年9月	日本経営学会第90回大会	東京都専修大学
17. 資源の解剖学的視点に基づくポジティブ心理的過程の考察	単独報告	2020年12月	日本経営学会東北支部会	オンライン開催
18. 制約対応における資源の分析方法と心理マネジメントの関係に関する学際的考察	単独報告	2021年9月	日本経営学会第95回全国大会	オンライン開催
19. ベンチャー研究の課題、展望～制約対応の研究のレビューを踏まえて～	単独報告	2021年12月	日本ベンチャー学会第25回全国大会統一論題I	大阪経済大学
(講演等)				
1. 宮城県の食品産業振興～現状の把握と問題点の抽出	共同報告	2009年4月	宮城県食品工業協議会総会	場所：仙台市
2. 開発のための経営学の理論構築—貧困者のアプローチに注目して	単独報告(講演)	2010年6月	日本大学大学院経済学研究科大学院特別講義	場所：日本大学大学院経済学研究科(東京都)
3. Poverty issues in management studies	単独報告(講演)	2012年11月	Vienna University of Economics and Management, “Current Issues in Nonprofit Management” Course	場所：ウィーン経済・経営大学大学、ウィーン市、オーストリア

4.社会参加を通じた地域の若者のグローバル社会への意識向上	単独報告(基調講演)	2015年7月	北海道・東北ブロック青少年国際交流を考える集い	主催：内閣府、日本青年国際交流機構、(一財)青少年国際交流推進センター、青森県青年国際交流機構
5. ベトナムと青森県との絆となって～ベトナムへの県産農産物輸出の可能性	単独報告(講演)	2015年12月	国際農業事情講演会	主催：青森県国際農友会
6.ひとづくり、しごとづくり	単独報告(講演)	2018年12月	第9期青森ベトナム交流協会総会	主催：青森ベトナム交流協会
7. グローバルな時代を幸せに生きる道～最新の学術研究成果に基づく探究及び提言	単独報告	2020年9月10日	令和2年度青森東高等学校大学模擬講義	主催：青森東高等学校
8. ダイバーシティ(多様性)を知るヒント」に関する講話、ディスカッション	共同講話	2021年1月30日	気づく・つながる講座第3回「ダイバーシティ(多様性)を知るヒント」	主催：特定非営利活動法人あおもりダイバーシティ

競争的研究資金獲得実績

- [1]科学研究費・研究活動スタート支援「開発のための経営学の理論構築一貧困者のアプローチを中心に」、研究代表者、平成 22～23 年（総額：3,094 千円）。
- [2]科学研究費・基盤研究(B)「農村地域における社会企業活動の国際比較ーアジア諸国を中心に」(大滝精一・東北大学大学院経済学研究科教授・研究代表者)、研究分担者、平成 22-24 年（総額：18,720 千円）。
- [3] 科学研究費・若手研究(B)「貧困撲滅に関するビジネスアプローチの明暗境界線の研究」、研究代表者、平成 25-27 年（総額：3,510 千円）。
- [4]科学研究費・基盤研究(B)「震災復興下における当事者主導型ソーシャルイノベーションの研究」(大滝精一・東北大学大学院経済学研究科教授・研究代表者)、研究分担者、平成 25-27 年（総額：14,040 千円）。
- [5] 科学研究費・若手研究(B)「資源間関係論の構築に基づいた社会企業活動のプリコラージュ的な過程の一考察」、研究代表者、平成 28-31 年（総額：3,640 千円）。
- [6] 科学研究費・基盤研究(C)「資源の解剖学的分析と企業家の心理的側面の相互補完関係に基づく制約への対応の考察」、研究代表者、令和3-6年（総額：1,800千円）。

査読経験

California Management Review、日本ベンチャー学会誌

地域貢献・社会貢献

***研究・教育・社会活動の新聞掲載:2011年4月～2023年3月合計40回以上**（読売新聞、日本経済新聞、朝日新聞、河北新報、東奥日報、デーリー東北、陸奥新報等）。

・平成 17 年 4 月～現在：仙台国際交流グループ『萩の会』の役員・留学生担当として、在仙外国人を対象に、日本の伝統行事や習慣の紹介、精神的な支援や国際理解のための交流を通し国際親善、国際交流を目指す活動に貢献している。

・平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月：東北大学大学院経済学研究科地域イノベーション研究センター「印刷団地の再生プロジェクト」のプロジェクト・メンバーとして同研究科の教員、大学院生および地域の実務家と共に仙台印刷団地の企業を調査・分析することを通じて、印刷団地の新しい構想やビジ

ネス・モデルについて提案した。

・平成 20 年 7 月～平成 21 年 3 月：東北大学大学院経済学研究科地域イノベーション研究センター「印刷団地の再生プロジェクト」、「宮城県の食品産業振興プロジェクト」のプロジェクト・マネジャーを務め、宮城県食品工業協議会と共同で宮城県の食品メーカーのアンケート調査やヒアリングを行い、宮城県の食品産業の現状と問題点を分析した。調査結果をもとに、宮城県の食品産業の高付加価値化戦略を図るための流通のチャネル戦略、地域ブランドづくりの内面性と食品産業と観光産業とのコラボレーションについて提案した。その研究成果は同センターの報告書にまとめるのだけではなく、宮城県食品工業協議会総会（2009 年度）、学会での報告を通じて発信した。

・平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月：平成 21 年度「学生発未来への挑戦プロジェクト」（官学連携青森県基本計画推進プロジェクト）の留学生チームのチームリーダーを務め、青森県の課題を外国人の視点で研究し、青森県に提案した。青森県企画政策部長より『「青森県基本計画未来への挑戦」の推進に寄与した』という認定証を授与された。

・平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月：（財）宮城県国際交流協会国際理解教育支援事業の外国人講師として月数回宮城県内の保育園や幼稚園などを訪問し、子供たちとのふれあいを通じて、異文化理解の促進に貢献した。

・平成 22 年 12 月～平成 23 年 3 月：（財）宮城県国際交流協会の外国人支援通訳サポーター（保険・医療通訳）としてとして、在仙外国人が、安心して医療機関で医療サービスを受けることができるよう、医療機関で診断手続きを案内したり、外国人患者と医師の間のスムーズなコミュニケーションを支援したりしてきた。

・平成 23 年 4 月～現在：東日本大震災復興支援団体「青森中央学院大学学生団体ふっこう会」を設立し、復興支援活動と人材育成という一石二鳥の場として、助成金や寄付金に頼らずに学生と一緒に正確な手法を用いて、被災者の抱えている問題を勉強しながら、持続可能な形で、課題の解決に取り組んでいる。本団体は、一連の活動が評価されて、平成 26 年 3 月 11 日に厚生労働省より「東日本大震災における被災者の支援活動等に対する厚生労働大臣感謝状」を授与された。

・平成 23 年 4 月～現在：セミナー、個別相談だけではなく（申請者がリーダーを務める）実質的なベトナム事業研究会の開催で東北地域の企業の海外進出をサポートしている。

・平成 25 年 3 月～現在：日本で使われなくなった車いすを整備し旅行者に託して今まで 70 ヶ国に 2,000 台以上を送り届ける活動をしている「飛んでけ！車いす」の会と協力して、申請者の農村地域の情報やネットワークを活用し、今まで大都会にしか車いすを送れていないという限界を克服し、より多くの子供の障害特徴に合った車いすを送り届けることに貢献している。それと同時に、青森県のなかで活動を拡大し、県内のボランティアとともに「青森車いすプロジェクト」をスタートさせ、車いすを県内にストックし、青森空港発の便などでベトナムなど発展途上国の子供に車いすを送る活動をしている。

・平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月：青森県基本計画「平成 26 年度学生発未来を変える挑戦プロジェクト」『青森県の子供の生活環境と生活習慣の研究を踏まえた人口減少克服と健康長寿への提言』（採択提案企画）担当教員

・平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月：青森県「県産食材のローカライズ促進事業」協力

・平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月：青森県立美術館からの協力依頼を受けて、ピュリッツァー賞受賞作《安全への逃避》（1965）をはじめ、戦場の写真で世界的に有名になった澤田教一氏が残した写真の撮影地特定調査に協力した。

・令和 3 年 3 月 28 日：むつ下北未来創造協議会「しもきたベンチャープランコンテスト」最終審査会審査員。

その他、現在数多くの国際協力や地域活性化のプロジェクトを企画・推進している。